

「英語コミュニケーションⅠ」単元ごとの指導と評価の計画

愛知県立岡崎北高等学校
教諭 富田 理恵子

1 日時・実施場所

〈省略〉

2 学 級

〈省略〉

3 学 級 観

〈省略〉

4 教 材

〈省略〉

5 単元の目標

人間の心理や行動の特徴を利用し、創造的にポイ捨てをなくす方法を述べた論説文を聞いたり読んだりして概要や要点を捉えることができる。またその内容や言語材料を活用して、身近な課題を発見し、その解決策について話し合い、自らの考えを発表することで、論理的に意見を述べる力と主体的に社会に参画する態度を養う。

6 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	話し手の意図や概要を理解しながら、日常会話でよく使われる表現を聞いて理解することができる。
読むこと	・段落内の要点や、文章全体の概要を読んで理解することができる。 ・発音やイントネーション、リズムを意識して、要点が聞き手に伝わるように音読することができる。
話すこと [発表]	日常的な話題について、聞き手の理解に配慮しながら、自分の主張や考えを話して伝えることができる。
書くこと	日常的な話題や個人的な事柄について、既習の表現や文法事項を用いて、50語から80語の基本的な文章を書いて伝えることができる。

7 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	/	他のグループの発表を聞き、概要や要点、詳細を正確に捉えている。	他のグループの発表を聞き、概要や要点、詳細を正確に捉えて評価をしたり、自分の考えを発表する際の参考にしようとしている。
話すこと [発表]		発見した校内の課題とその対策について、聞き手に理解してもらえるように、分かりやすく口頭で発表している。	・発見した校内の課題とその対策について、聞き手に理解してもらえるように、分かりやすく口頭で発表しようとしている。

			<ul style="list-style-type: none"> ・話すスピードや間の取り方、アイコンタクトなど、聞き手に配慮した発表をしようとしている。 ・振り返りシートを活用しながら発表を改善しようとしている。
書くこと		読み手に自分の考えを理解してもらえるように、自分で発見した校内の課題とその対策について理由とともに書いて伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手に自分の考えを理解してもらえるように、自分で発見した校内の課題とその対策について理由とともに書いて伝えようとしている。 ・スライドを用いて要点やキーワードを聞き手に配慮して効果的に提示しようとしている。

8 パフォーマンステスト

○領域

話すこと [発表]

○内容

校内で起こっている問題を発見し、その対策について自分たちの考えを理由とともにグループで話して伝える。

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：校内で起こっている問題点について、具体的に説明している。

条件2：問題を解決するための二つの対策を提案している。

条件3：論理的で説得力のある根拠や具体例とともに意見を述べている。

○評価

(1) 授業者による発表中の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a		三つの条件を満たした上で、聴衆を引きつけ、納得させる発表をしている。	三つの条件を満たした上で、聴衆を引きつけ、納得させる発表をしようとしている。
b		三つの条件のうち、二つの条件を満たしている。	三つの条件のうち、二つの条件を満たしている。
c		「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

(2) 生徒による自己評価と相互評価

ア 生徒による自己評価

10個の目標を生徒自身で設定し、中間発表後と最終発表後にその項目についての自己評価を行う。今回は初めての取組であるため授業者が10個中2個、全生徒共通の目標を設定する。

イ 生徒同士による相互評価

(ア) 他のグループの発表直後に以下の3項目について4段階で評価をし、Microsoft Forms (以下 Forms)に入力する。評価基準については生徒がその場ですぐに評価しやすいようにルーブリックではなく、以下のとおり、4 : Excellent、3 : Good、2 : Fair、1 : Needs improvement の4段階とする。

Content	Presents a problem with two interesting solutions with examples, facts, or statistics to support ideas.
Delivery	Speaks with fluctuation in volume and inflection to maintain audience interest and emphasize key points.
Eye-contact	Holds attention of entire audience with the use of direct eye contact.

(イ) グループ内で最も貢献したと思う人とその理由について Forms に入力する。

○最終的に授業者が評価をする際、「主体的に取り組む態度」については、アとイの生徒による自己評価と相互評価も参考とする。

9 単元の指導計画

(聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと [やり取り]、発…話すこと [発表]、書…書くこと)

※網掛けは記録に残す評価の場面

※「学びに向かう力」を育成する取組については太字で表記している。

時間	ねらい (■)、言語活動 (丸数字)	内容のまとめり					生徒の活動状況を見届ける観 点 (【 】)・方法 (○)
		聞	読	や	発	書	
1	■単元の目標を理解する。						【知】適切な語句・表現を使用しているか。 【思】概要や要点を適切に捉えているか。 【態】積極的に自分の意見を伝えようとしているか。 ○ワークシート ○活動の観察
	■本文の概要を読み取り、身の回りにある問題を解決するためのさまざまな工夫について知る。また、論理的に意見を伝えるための表現や構成を理解する。						
	①単元の目標と本時の目標を確認する。	○					
	②問題解決に関する動画を見て、そこから得た情報をクラスで共有する。	○					
	③数種類のごみ箱の写真を見て、そのデザインや工夫についてペアで意見を交換し、発表する。				○		
	④本文を読み、ワークシートの内容理解に関する問いに答える。		○			○	
⑤本文の英文を聞き、ワークシートの空欄を埋めてイラストの説明と要約を完成させる。	○				○		
⑥次回の授業までに、ワークシートに個人のアイデアを記入する。(テーマ：校内の問題点とその解決策の提案) ロイロノート・スクール(株式会社 LoiLo、以下「ロイロノート」と表記) で配付されている 問題解決に関する英文記事を参考資料として活用する。							

2	<p>■よいプレゼンテーションには何が必要かを考え、個人で目標を設定する。</p> <p>■校内で起こっている問題を発見し、二つの解決策を考え、グループで発表の準備をする。</p> <p>① 4人一組のグループになり、前回の授業で読んだ論説文の構成や、プレゼンテーションに使えるような表現についてグループやクラス内で共有する。</p> <p>② 中高生プレゼンテーションコンテストの動画を見て、よいプレゼンテーションに必要なことについてグループで話し合い、個人の目標を「自己評価・振り返りシート」にいくつか書く。</p> <p>③ 考えてきた校内の課題とその対策について共有し、グループで発表する内容を決定する。スライドを含めたプレゼンテーションの準備をする（グループ内の各生徒がスライドの作成に関わるよう指導する）。</p>	○	○	○	○	<p>【知】 語句や表現を適切に使用し論理的な文章を書けているか。</p> <p>【思】 よいプレゼンテーションの条件について考えるとともに、意見交換をしながら思考を深めているか。</p> <p>【態】 論理的な文の構成や相手に配慮した話し方を積極的に取り入れようとしているか。</p> <p>○ワークシート ○活動の観察</p>
3	<p>■中間発表を通して改善点を見つけ、発表の内容や発表技術を向上させる。</p> <p>① 各グループで打ち合わせや発表練習を行う。</p> <p>② 「中間発表」として、5グループずつ同時に教室内で発表する。その際残りの5グループは聴衆役として、それぞれペアとなるグループの発表を見て、よい点や改善点についてアドバイスをする。ペアとなるグループを交代しながら、各グループ合計2回の発表行う。</p> <p>③ 中間発表で受けたアドバイスを「自己評価・振り返りシート」に記入する。振り返りは「よい点→よくなかった点→原因分析→次回の目標」の順で記入する。(Good points→Bad points→Reason→Next)</p> <p>④ 追加で新たな目標設定をして、中間発表前に設定したものと合わせて合計10個の目標を記入する。全ての目標をシートに記入後、中間発表時点での各目標に対する自己評価を記入する。</p> <p>⑤ アドバイスや反省点を生かしながら、プレゼンテーションの内容や発表方法を改善し、練習をする。完成原稿とスライドを Teams で提出する。</p>	○	○	○	○	<p>【知】 適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を書いたり話したりしているか。 ・他者の発表内容を理解し優れた点や改善点を指摘できているか。 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標を設定し、達成に向けて努力をしているか。 ・自分の課題を的確にとらえ改善しようとしているか。 <p>○ワークシート ○活動の観察</p> <p>思 態</p>

4	<p>■生徒間相互評価、自己評価、振り返りシートを通して、本単元でできるようになったことと、今後できるようになりたいことについて確認する。</p> <p>パフォーマンステスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人一組でスライドをプロジェクターで映しながら、発見した校内の課題とその対策について発表する。 ・Formsを使った生徒間相互評価を実施する。また最もよかったグループも選ぶ。 ・授業者はルーブリックを用いて評価する。 <p>①自己評価と振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己評価・振り返りシート」に最終発表後の10個の目標に対する自己評価と、振り返りを記入する。 ・Formsを使い、「自己評価・振り返りシート」の記録を基に、各自のタブレット端末で振り返りと10個の目標の達成度、グループ内で最も貢献したと思う生徒について入力する。 <p>②授業者から Forms での投票結果（Best Presentation Award Top 3）と総評を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Forms で入力した生徒間相互評価の結果をグラフ化されたものを各グループで共有し、よかった点、今後改善すべき点を確認する。 	思 態			思 態	<p>【知】適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】論理的かつ聴衆を引っつける内容や構成にしているか。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した目標を達成しようとしているか。 ・中間発表での課題を改善しようとしているか。 <p>○活動の観察</p> <p>○自己評価・振り返りシート（紙）</p> <p>○生徒間相互評価（Forms）</p> <p>○授業者によるルーブリック評価</p>
---	---	--------	--	--	--------	---

実践報告

1 実践報告とアンケート結果

この実践では、誰でも取り入れやすい「学びに向かう力」の育成を目指した。実際の指導の現場では時間や手間のかかる取組は、たとえ大きな効果があっても実践することが難しい。特にプレゼンテーションのパフォーマンステストでは、生徒がその準備をするのに多くの時間が必要であるが、準備段階での評価や一斉指導には苦勞をすることがある。そこで自己評価・振り返りシートと Forms による生徒間の相互評価を効果的に活用することによって、生徒の「学びに向かう力」と学習を調整する力を高め、短時間で準備と実践ができるように、次の2点を取り入れた指導計画を作成した。

ア 生徒は10個の目標を設定して、中間発表と最終発表において、それぞれの目標に対する自己評価と振り返りを行う。

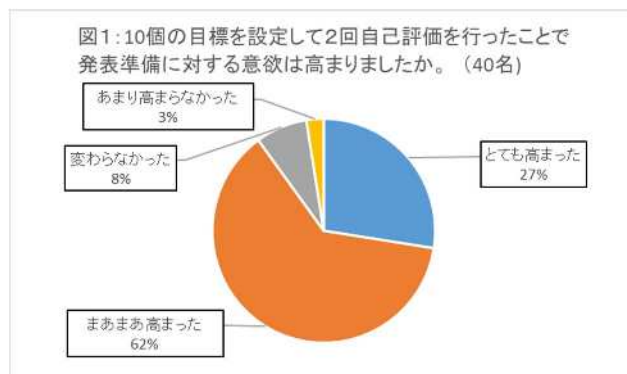
イ Forms を用いて相互評価することで、生徒が優れたプレゼンテーションの条件を意識するとともに、発表後に生徒に対する迅速なフィードバックを可能にする。

(1) 生徒による目標設定と自己評価の効果

単元の最初の授業で本単元の目標を共有し、後に実施する発表をイメージしながら、教科書を読む活動を行った。各パートに合うタイトルを選択する問題、簡単な英問英答、要約の空欄を埋める問題を通して本文の概要を確認した後、プレゼンテーションで使用できる表現をペアで探す活動を行い、クラス全体で共有した。

授業の後半には、自己評価・振り返りシート（資料1）を用いて目標設定を行った。自己評価シートには、10個の目標を記入する欄があり、最初の2個には授業者ができるようになってほしいと考えている目標が書かれているが、残りの8個は生徒が記入するために空欄となっている。多くの生徒が8個もの目標を思い浮かず悩み始めたところで、インターネット上にある高校生のプレゼンテーションコンテストの映像を見せた。その後、優れたプレゼンテーションの特徴についてグループで意見共有を行い、自らの目標を立てる上での一助とした。この段階では8個の目標の全てが埋まっていなくてもよしとし、中間発表で他者からのアドバイスを受けて最終的に8個の目標を記入できればよしと伝えた。生徒は自らの学びを調整しながら自分で選んだ目標を設定したことで、事後のアンケート（図1）からも生徒の意欲を大きく引き出すことができたことが分かった。「少しまたはかなり低下した」と答えた生徒は1人もいなかった。

以下は事後のアンケートで選択した理由の一部抜粋である。



○ 「とても高まった」「まあまあ高まった」と答えた生徒の理由より一部抜粋

- ・このようにしたいというイメージではなくて、自分に合った目標を具体的に言語化することで自分に足りていないところが分かりやすく、発表の質の向上に役立ったと思うから。
- ・自分に必要な項目を設定したので、目指すレベルや目標について考える機会になったから。
- ・あらかじめ詳しい目標を立てられると発表がしやすいと感じたから。
- ・明確な目標をもつことで前回よりもできるようにしようという意識が高まったから。

○ 「あまり高まらなかった」「変わらなかった」と答えた生徒の理由より一部抜粋

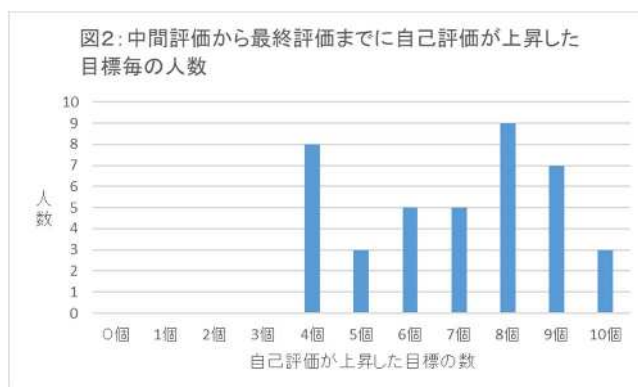
- ・10個だと多過ぎて目標を決めるのも達成するのも大変だったから。
- ・実際に発表するときには緊張して全部忘れてしまったから。
- ・目標に向けて練習するほどの余裕がなかったから。

(2) 自己評価の変化と目標設定の妥当性

自ら設定した目標の評価を4段階で中間発表時と最終発表時に行ったが、その中で自己評価が1ランク以上上昇した目標の数についてアンケートを行ったところ、**図2**のような結果となった。

自己評価が上昇した目標は「8個」と答えた生徒が最も多く、次に「4個」と答えた生徒が多かった。これは、実現できそうな目標を設定した生徒と、高い目標を設定した生徒の差であると考えられる。また「0～3個」と答えた生徒は0人で、「10個」と答えた生徒は3名であった。平均すると1人6.9個

の目標について評価が上昇したことになるが、これらのデータから多くの生徒がそれぞれの事情に応じて適切に目標を設定できていたと考えられる。達成感を味わいたい生徒や自信のない生徒は比較的達成しやすい目標を設定し、向上心の強い生徒は高い目標を設定することで、生徒それぞれが前向きに課題に取り組むことができ、「学びに向かう力」を育成する要因となったと言える。この時使用した自己評価シートには以下のような工夫をした。



- 「学びに向かう力」を育成するために自己評価・振り返りシートで工夫した点
 - ・ 10個のうち8個の目標はグループでの話し合いやモデルとなる映像、中間発表でのアドバイスなどを基に自ら設定できるようにした。
 - ・ 中間発表と最終発表の2回分の評価を記入する欄をつくり、成長した点を生徒が視覚的に確認できるようにした。
 - ・ 中間発表でのアドバイスを記入する欄をつくり、改善点やよい点が一目で分かるようにした。
 - ・ 中間発表時と最終発表時の振り返り記入欄をつくり、記入の仕方を明示した。「英語リテリング&ショーとプレゼンテーション指導ガイドブック」(上山晋平, 2022年, 明治図書)を参考に、「Good points (よかった点) →Bad points (改善すべき点) →Reason (Badについて: なぜうまくいかなかったのか) →Next (次はどのようにすればよくなるか)」の順に記入する形にした。このことにより、生徒は問題点や改善方法を言語化しやすくなった。後で振り返りを読む授業者も、全て同じ形式で書かれているためどのような努力をしたのかという点を確認しやすくなった。

(3) 中間発表の重要性

2時間目にはプレゼンテーションの準備をグループごとに行い、次授業では中間発表を実施することを伝えた。タイムマネジメントを意識することの重要性と、決められた時間内にどこまで達成できるかという点も評価していくことも併せて伝えた。限られた時間の中で、各グループで誰かがリーダーシップを発揮し、グループをまとめ、計画的に効率よく進めていく必要が出てくる。リーダーシップを発揮する生徒がいなかったグループでは、テーマの決定に時間がかかり、準備がなかなか進まない様子であった。

3時間目には打ち合わせの時間の後、中間発表を実施した。中間発表では、まだスライドが未完成であったり、発表原稿が完成していないグループもあったが、できているところまでの発表でよいとした。教室内の5か所で半分の5グループが同時に発表し、残りの5グループは観客としてそれぞれ割り当てられたグループの発表を見て、よかった点と改善点についてアドバイスを行った。その後、発表グループと観客グループは役割を交代した。同様のことを、他のグループとの組み合わせで再び行った。発表後はグループごとに最終発表に向けて発表原稿の質を高めるために準備と練習を行った。中間発表の効果は大きく分けて以下のとおり三つあった。

○中間発表の三つの効果

- ・途中で他者からのアドバイスをもらい、他グループのプレゼンテーションを見ることで、自分のグループの改善点や更に伸ばすべき点が明確になり、最終発表の質が高まった。
- ・グループの準備の進度がある程度そろえることができた。中間発表がない場合、準備不足によりパフォーマンステスト当日は質の低い発表になることがある。今回中間発表という一つの締め切りを設けたことで、そこまでに全てのグループがある程度完成に近づけることができた。その後の修正や練習を経て、最終発表ではどのグループの完成度も高かった。中間発表の時点で準備不足であったグループや発表内容が簡単で短すぎたグループは、他のグループの発表からの刺激を受け、中間発表から最終発表までの間に不足している部分を改善しようと、よりいっそう熱心に取り組むようになり、最終発表時には大きく発表の質が向上した。
- ・中間発表と最終発表の2回に分けて行った自己評価を一覧性のあるワークシートに記入することで、生徒は各目標の成長の度合いを確認して、誰でも努力次第で達成感を味わうことができた。授業者も準備段階から発表段階までの間、生徒の努力や成長を確認しやすくなった。

4時間目には、1グループごとにクラス全体の前で作成したスライドを見せながらプレゼンテーションを行うパフォーマンステスト（最終発表）を実施した。授業者は生徒にあらかじめ示しておいたルーブリックを用いて評価を行った。発表を見終わるたびに生徒は、Formsを用いて各グループの評価を入力した。三つの観点について、ルーブリックを用いずに4段階（Excellent、Fair、Good、Needs improvement）で相互評価を行った。ルーブリックを確認しながら生徒が全グループを評価すると時間がかかり、1時間で発表が終わらない可能性を考慮して、この方法で実施した。その結果、短時間でスムーズに相互評価を行うことができた。またFormsを利用したことで、プレゼンテーション終了直後に三つの観点からの生徒評価をグラフ化したものができるため、各グループに即時のフィードバックが可能となった（資料2）。

2 反省点

今回は、取り組みやすい指導案を目指して、4時間という短い単元で本文の内容理解からプレゼンテーションのパフォーマンステストまで行った。短時間でアイデアをまとめるために、テーマの範囲を「校内で起こっている問題」に限定したところ、どのグループも比較的短時間でテーマを決定したが、発表時には同じようなテーマを扱うグループが複数あった。改善策としては、①テーマ設定の範囲をもう少し広げる、②本文読解後に国内外の事例についての複数の文章を、ロイロノート等を通じて配付することで、プレゼンテーションの内容を考える際に活用できる工夫をすることが考えられる。②については、テーマについての知識や理解を深めるなど、主体的に英語の文章を読むきっかけとすることもできる。今後の活動の際には、易しいものから少し難易度の高いものまでを生徒が選択して読むことができるように幅広い難易度の英文記事を配付して、テーマに関する考察を深めることを促したい。

また、今回は4時間で実施しながらも全員が発表することができたが、中間発表前の準備時間をもう1時間増やした方が、より生徒の満足度や達成感が高まったと思われる。

さらに、事後のアンケートで10個という目標の設定の数は適切であったという声と多すぎて意識しきれなかったという声があった。学習においてスモールステップを設定していくことの効果と、多くの目標をクリアしていくことで達成感、そして自らの成長を実感してほしいという授業者の願いを、強調して伝えていくことが必要であった。プレゼンテーションを年間で複数回、長期的または継続的に行っていく場合には、プレゼンテーションに必要な技術30項目、プレゼンテーションで使ってみたい表現50フレーズなど、最初に小さな目標を多数提示し、活動ごとに自らに合った目標を選んで設定する時間を設けることで、年間を通して数多くの目標達成を目指していく形も生徒の学習意欲や達成感を高めるために有効な手段だと考えられる。

3 まとめ

今回の研究を通して、「学びに向かう力」の育成には、①「生徒自身による目標の設定」と②「成長の実感」の二つが重要な要素であると感じた。①に関しては、生徒が一人で適切な目標を見いだしてスモールステップを設定していくことは難しい。そのため、モデルの提示、授業者や他の生徒からのアドバイスや意見交換の機会などが必要である。しかし、生徒が自ら目標設定をすることで、一人一人の学びや個性に合った目標を設定することが可能となり、学習意欲の向上や学習の調整へとつながることが分かった。②については、最初・中間・最後の時点での生徒の立ち位置を明確化することが成長の実感につながるため、最初の目標設定と、中間地点及び最終地点での振り返りが重要になることが分かった。多くの生徒がアンケートでも述べていたが、小さな目標を言語化することで次に何をすればよいか分かるので、学習意欲が向上し、そして中間地点で一度振り返ることで学習の調整が行われ、もう一段階上へと成長する可能性が高まると感じた。また、成長を実感することは、必ずしも授業者や他の生徒からの評価である必要はなく、生徒が自らの成長をワークシート等で視覚的に確認できるようにすることで効果があると感じた。40名というクラスサイズで、個別最適な学びの場を作ることは非常に難しい。しかし、自ら目標を設定して、段階的に自己評価を行うことで、授業者はパフォーマンステストの準備段階から一人一人の生徒に対して適切な支援や声かけをしやすくなる。

「学びに向かう力」を育成するための今後の課題として、目標の設定と成長の実感というサイクルをふだんの授業の中でも計画的、継続的に授業の中に組み込んでいく方法を考えていきたい。

4 参考文献

- ・ *Heartening English Communication I*. 桐原書店. 2021
- ・ 上山晋平. 『英語リテリング&ショーとプレゼンテーション指導ガイドブック』. 明治図書出版. 2022
- ・ 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校外国語）』. 国立教育政策研究所. 2021
- ・ 菅正隆、松下信之、山田知宏. 『4つのステップで学びが変わる！ 高校英語「探究する授業」の作り方』. 明治図書出版. 2022

Self-evaluation and Reflection

(1) Set 10 goals to improve your presentation!

目標		Poor	Fair	Good	Excellent
<input type="checkbox"/> 原稿を覚えて発表する。	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/> アイコンタクトをとりながら話す。	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/>	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/>	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/>	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/>	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/>	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/>	中間				
	最終				
<input type="checkbox"/>	中間				
	最終				

(2) Advice

Good points	Needs improvement

(3) Reflection for the 1st presentation (Good points→ Bad points→ Reason → Next)

(4) Reflection for the 2nd presentation / performance test (Good points→ Bad points→ Reason → Next)

(Class No. Name)

資料 2

Microsoft Forms アンケート画面より抜粋

4. Group1

①Content：内容（情報量と聞き手が興味を持つ工夫をしているか）
Excellent 4点、Good 3点、Fair 2点、Needs improvement 1点

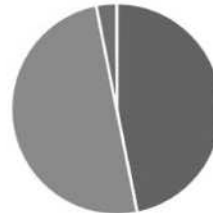
● 4	23
● 3	10
● 2	0
● 1	0



5. Group1

②Delivery：（声量・話し方）
Excellent 4点、Good 3点、Fair 2点、Needs improvement 1点

● 4	15
● 3	16
● 2	1
● 1	0



6. Group1

③Eye-contact：（相手と目を合わせながら発表しているか）
Excellent 4点、Good 3点、Fair 2点、Needs improvement 1点

● 4	22
● 3	9
● 2	1
● 1	0



34. 最も魅力的なプレゼンテーションをしたグループを選択してください。

● 1	16
● 2	5
● 3	1
● 4	0
● 5	1
● 6	10
● 7	2
● 8	1
● 9	2
● 10	1

